

令和5年度第2回森町地域公共交通会議 議事録

日 時 令和5年8月23日(水) 10:30～

場 所 森町公民館 1階大会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

2. 会長挨拶

- ・長瀬副町長より挨拶。

※森町地域公共交通会議設置要綱（以下、要綱という。）第5条第2項により、会長は森町副町長が務める。

3. 報告事項

①今後の運行形態について

- ・ 別途資料により説明

【酒井委員】 利用者意見を踏まえ運行計画の変更を実施いただいている体制は良い推進体制が構築されていると思われる。一方で、運行計画の変更に伴って利用者が変更前と変更後で混乱してしまう可能性もあるため、周知徹底は着実に実施することを心がけていただきたい。

【事務局】 9月、10月の広報でも周知を実施するほか、町内会の協力もいただきながら、より細かい住民周知を実施する。

②地域内フィーダー系統補助に関する計画認定申請について

- ・ 別途資料により説明

【質疑応答なし】

③実証運行利用状況集計報告

- ・ 別途資料により説明

【中澤委員】 駒ヶ岳・赤井川線における、からまつ分譲地からの利用者数はどうなっているか。みどりの村の方から利用してみたいという意見があった。

【事務局】 からまつ分譲地内の利用者数は2～3人程度であり座席には余裕があることが想定される。役場にもみどりの村の方から利用したいという要望は挙げられているため、今後の検討事項として進めることとする。

【伊藤委員】 みどりの村の方は自身で移動できる世代が多く、現段階で移動の足に困っている方は比較的少ない印象がある。一方で、将来的には検討が必要となる地域になることは認識いただきたい。

【事務局】 先程の回答と同様ではあるが、実施時期も含めて今後の検討事項とさせていただきます。

【佐々木委員】 運行地域を決めるにあたって、何戸数の住宅があれば運行するような基準はあるか。

【事務局】 地域の戸数は運行基準と関係ないため、生活の足を必要としている地域の抽出も含めて、今後の検討事項とさせていただく。

4. 議 事

①森町地域公共交通計画の一部変更について

- ・ 別途資料により説明

【酒井委員】 事前に運輸支局宛に確認をいただいている上での補足となるが、計画策定時には森町地域公共交通バスが運行していなかったため、当モビリティの運行内容などを追記した状況である。

また、計画を策定して終了ではなく、今回のような実態に合わせた見直しは随時実施いただくことが望ましい。

【事務局】 いただいた意見の通りと思うため、そのように今後も進める。

【横山委員】 計画書P49の将来像において、砂原地区の内容が地域内フィーダーとなっているため施策①と関連してくると思われるが、施策①の実施スケジュールが令和5年度の実施となっており、今年度から着手するイメージであるか。また、砂原地区内を運行する砂原線は地域間幹線系統であるため、将来像上での記載に留意する必要がある。

【事務局】 まず、将来像内の表記について誤りがあり、砂原地区を運行するモビリティはご指摘の通り、地域間幹線系統であり、砂原線の運行路線の検討を位置づけているため、修正を実施する。

一方で、地域内フィーダーとしてモビリティを運行することの要望が出ることも想定されるため、現況も含め分かりやすい図面への修正を実施する。

【伊藤委員】 計画書P59において、森町地域公共交通バスの収支率目標を5%としているが、下回った場合はどのような対応となるか。また、午後便は運行の必要性が低い可能性がある。

【事務局】 国庫補助との連動化のため収支率などを示しているが、収支率の状況に関わらず国庫補助を受けながら運行継続することを前提とし、町の持ち出しが増えたとしても運行は継続させていく考えである。

また、今後も運行内容の見直し検討は実施していくため、午後便の利用状況の含め動向を注視する。

- ・ 本会議をもって、変更内容について承認

②NPO法人まちづくり支援センター 代表理事 為国 孝敏 氏 総括

- ・ 運行当初に想定していたよりも利用していただけており、町民ニーズに着実に対応できている印象がある
- ・ 他自治体では国の補助基準2.0人/便を超えるのもやっとの地域もある中で、森町は着実に意見交換等を実施したこともあり現在のような利用に繋がっていると想定され、他地域にも事例として紹介できるような良い流れで進んでいると認識している
- ・ 一方で、市街地の利用は現状30%程度であるため、もう少し利用が増えて市街地

- 内の周遊手段として認識、利用してもらえるとより良い
- ・森町地域公共交通バスは交通空白地域への対応を主としているため、収支率に対する議論は重要性が低く、収支率よりは利用者数に注目し、利用者数に対して町がどれくらい負担をし、生活の足を確保できているのかを検証することが重要と思われる
 - ・現時点で上手く利用されていることから、今後より愛着が生まれ、さらなる需要が喚起されるためにはバスに名前をつけていただくことも良いと思われ、順調に進んでいるからこそ、次のステップを意識した進め方が重要
 - ・具体的な例を出すと、森町地域公共交通バスだけでなく、計画内で整理した砂原地区でも地域の方が移動しやすいような仕組みの検討も森町の地域公共交通を検討する上で重要な次のステップである
 - ・また、鉄道との兼ね合いもあるため検討事項として認識して進めていただきたい

4. その他

- 【深川委員】 企業広告が掲載されているようなコミュニティバス等の運行事例はあるか。
- 【為国先生】 全国で見ると実施している地域はあるが、北海道では事例が少ないと思われる。地域の企業の経営状況にもよるが、維持方策の一つとしては有効な手段と考えられる。
このような事例も含めた地域の皆さんで支えていく体制の検討も次のステップでは重要と思われる。
- 【佐々木委員】 現在のバスラッピングは白を基調としたデザインであり、まちなかでは目立たない印象があるため、必要に応じて検討を進めることも有効と思う。
- 【伊藤委員】 社会福祉協議会の関係で市街地の方と話す機会があるが、市街地の方は地域公共交通への意識は薄いと感じるため、市街地の方をターゲットとした周知は有効と思う。
- 【事務局】 為国先生の総括にもあった通り、次のステップに向けた実施内容は検討を進めたい。一方で、地域と創ることも森町地域公共交通会議の重要な位置づけであるため、本会議の委員からも是非提案をいただけると幸いである。
- 【事務局】 次回の会議は令和6年2月の開催を予定。
バスの愛称については利用者や広報などを活用し広く公募する予定。

5. 閉会